2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	太田　真央
科目名	成人看護援助論Ⅱ （尊厳ある生と死、大切な生活をつなぐ看護）	時間数	21 時間　11 回	

科目概要

人生の最終段階にある対象の「生」と「死」について考え、最期までその人らしくよりよく生きることを支える意思決定支援、エンドオブライフケアにおける看護の役割について学ぶ。倫理的課題を理解し対象の尊厳ある「死」を支える看護と家族ケアについて学ぶ。

授業目標

1　人生の最終段階にある対象の倫理的課題と意思決定支援について理解できる
2　エンドオブライフケアにおける対象の主な身体的症状を理解し、対象と家族の生活を支えるための看護援助の視点がわかる
3　臨死期のケアや家族ケアの方法がわかる

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人生の最終段階､エンドオブライフの時期にある対象の理解 対象の理解の視点 症状の理解とマネジメントの視点	講義 DVD 視聴	
2 3	意思決定支援 アドバンスケアプランニングとは 意思決定支援における看護師の役割	講義 DVD 視聴 演習	
4 5	エンドオブライフの時期にある対象の日常生活支援 日常生活支援に必要なアセスメントの視点 対象の「生活」「暮らし」を支える日常生活ケアの方法	講義 演習	
6	エンドオブライフの時期における多職種連携 多職種連携における看護の役割 対象の「生活」「暮らし」を支える社会的資源	講義	
7 8	臨死期の援助① 臨死期における症状の特徴とケア グリーフケア、家族ケア エンゼルケア	講義 グループワーク	
9	臨死期の援助② エンゼルケア	演習 DVD 視聴	
１０	エンドオブライフケアにおける倫理的課題① 倫理講話：人の「生」と「死」を考える	講義	

2026.4.1.

１１	エンドオブライフケアにおける倫理的課題② 人の「生」と「死」を考える	GW	

受講上の注意
評価方法
筆記テスト 80%　　授業態度（レポート提出含む）20%
使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎看護学 4　臨床看護総論 第 8 版」, 香春知永・他 編, 医学書院, 2026 年 「系統看護学講座 別巻　緩和ケア 第 3 版」, 恒藤悟、田村恵子・他 編, 医学書院, 2026 年
参考文献
「ナーシンググラフィカ　成人看護学⑥緩和ケア」, 宮下光令・他 編, メディカ出版, 2025 年 「看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして」, 谷本真理子、増島麻里子・他 編, 南江堂, 2025 年

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	太田　真央
科目名	成人看護学援助論Ⅳ （病気とともに生活する人を支える看護）	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

成人期における慢性的な疾患を持つ患者の特徴を理解し、看護の役割について学ぶ。成人期の慢性疾患を持つ患者の生活背景の理解や、患者の生活スタイルにあったセルフマネジメント能力を養うための援助方法について学びを深める。

授業目標

1　セルフマネジメント能力を高める看護援助の方法がわかる
2　慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・促進するために必要な社会資源である保健医療福祉制度やサービスおよびその活用方法が理解できる
3　対象とその家族の生活を身体的・心理的・社会的側面から理解し、対象やその家族の抱える問題点を整理し必要な看護を考えることができる
4　セルフマネジメントを促進する教育的支援、技術の基本的な考え方を活用した看護支援の方法がわかる

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	セルフケアマネジメントを高める支援① セルフモニタリング、症状マネジメント	講義	
2	セルフケアマネジメントを高める支援② 成人患者への教育的アプローチ	講義 GW	
3	セルフケアマネジメントを高める支援③ 相談技術	講義 演習	
4 5	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援 身体的・心理的・社会的特徴 患者および家族への援助 　症状マネジメント、セルフモニタリング 　教育的支援、心理社会的支援	講義	事前課題
6 7	慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援 身体的・心理的・社会的特徴 患者および家族への援助 　症状マネジメント、セルフモニタリング 　教育的支援、心理社会的支援	講義 GW	事前課題
8 9	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援 身体的・心理的・社会的特徴 患者および家族への援助 　症状マネジメント、セルフモニタリング 　教育的支援、心理社会的支援	講義 GW	事前課題

１０ １１ １２	慢性腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援 （人工透析をうける患者の援助） 身体的・心理的・社会的特徴 患者および家族への援助 　症状マネジメント、セルフモニタリング 　教育的支援、心理社会的支援 人工透析を受ける患者の援助 　インフォームドコンセント、意思決定支援、 　社会的支援	講義 GW	事前課題
１３ １４ １５	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援 身体的・心理的・社会的特徴 患者および家族への援助 　症状マネジメント、セルフモニタリング 　教育的支援、心理社会的支援 （看護過程の展開） 　必要な情報収集、看護アセスメント、看護問題の整理と 　看護計画・患者指導計画の立案、実施評価 　※血糖測定、インスリン注射の技術演習	講義 GW 演習	事前課題

受講上の注意

事前課題がある際は、授業開始前までに各自で自己学習をお願いします。

評価方法

筆記テスト 80%　　授業態度（演習課題等含む）20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 第 16 版」, 古田俊子・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 第 16 版」, 朝倉啓介・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 第 16 版」, 南川雅子・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 8 腎泌尿器 第 16 版」, 井手隆文・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌・代謝 第 16 版」, 吉岡成人・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「看護テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護（改定第 4 版）
病気とともに生活する人を支える」, 鈴木久美・他 著, 南江堂

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	老年看護学	単位数	1 単位	木戸　信子
科目名	老年看護学援助論Ⅲ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

実際の高齢者看護を想定し、高齢者に特有な症状・疾患や障害、環境などを取り上げながら事例による看護過程の展開を行い個別性のある看護上のニーズや援助法を学ぶ。事例から学ぶことで、高齢者を全人的に理解し、多職種と協働し問題解決する看護の考え方を理解することをねらう。

授業目標

1　高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的影響を考慮したコミュニケーションの取り方を理解する。
2　高齢者に多い嚥下障害の実際について理解し、看護の実践方法を考えることができる。
3　事例展開を通して、老年期の患者を全人的に捉え、多職種と連携し問題解決する看護を考えることができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	コミュニケーション演習①	演習	
2	コミュニケーション演習②	演習	
3	認知症リハビリテーション① ・レクリエーションの考案	演習	
4	認知症リハビリテーション② ・レクリエーションの実施	演習	
5	嚥下障害がある患者へのアプローチ① ・事例提示	講義	
6	嚥下障害がある患者へのアプローチ演習② ・口腔ケア	演習	
7	嚥下障害がある患者へのアプローチ演習③ ・食事介助、ミキサー食、トロミ食体験	演習	
8	嚥下障害がある患者へのアプローチ演習④ ・経管栄養	演習	
9	健康逸脱からの回復を促す看護① ・脳血管障害の看護事例ワーク①	GW	
10	健康逸脱からの回復を促す看護② ・脳血管障害の看護事例ワーク②	GW	
11	健康逸脱からの回復を促す看護③ ・心不全の看護事例ワーク①	GW	

12	健康逸脱からの回復を促す看護④ ・心不全の看護事例ワーク②	GW	
13	看護過程の展開（紙上事例） ・誤嚥性肺炎①	講義	
14	看護過程の展開（紙上事例） ・誤嚥性肺炎②	講義	
15	看護過程の展開（紙上事例） ・誤嚥性肺炎③	講義	

受講上の注意

老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱの学習内容を持参してくること。
GW は積極的に参加、発言をすること。
提出期日を守ること。

評価方法

筆記テスト 80%　　態度（提出物を含む）20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 老年看護学 第 10 版」，北川公子・他 著，医学書院，2026 年
「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第 6 版」，鳥羽研二・他 著，医学書院，2026 年
「系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　第 19 版」，任　和子・他著，医学書院，2026 年

参考文献

「認知症 plus コミュニケーション 怒らない・否定しない・共感する」，
大庭輝・佐藤眞一 著，日本看護協会出版会，2021 年
「高齢者が元気になるレクリエーション」，三瓶あづさ・土井剛彦 著，日本文芸社，2019 年
「個別性をふまえたアセスメントができる老年看護過程」，任和子 著，照林社，2023 年

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	小児看護学	単位数	1 単位	清成　万里子
科目名	小児看護学援助論Ⅱ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

子どもの成長発達段階を考慮し、小児看護に必要なフィジカルアセスメントや基本的看護技術を習得する。また事例を通して、小児領域で特異的な疾患について看護過程の展開を行い、必要な看護実践を考える。

授業目標

1　健康障害を持つ子どもおよび家族に対するアセスメントの視点が理解できる。
2　健康障害を持つ子どもとその家族に必要な基本的看護技術が習得できる。
3　事例を通して、小児領域で特異的な疾患について看護過程展開をし、実践方法がわかる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	子どものアセスメント① ・バイタルサイン測定	講義・演習	
2	子どものアセスメント② ・身体測定と評価	講義・演習	
3	子どものアセスメント③ ・フィジカルアセスメント	講義・演習	
4	検査・処置を受ける子どもの看護① ・採血、採尿、検便の援助	講義・演習	
5	検査・処置を受ける子どもの看護② ・腰椎穿刺、骨髄穿刺の援助	講義・演習	
6	検査・処置を受ける子どもの看護③ ・日常生活援助（食事、清潔、排泄）	講義 DVD 視聴 演習	
7	検査・処置を受ける子どもの看護④ ・子どもの心肺蘇生、気道閉塞の解除	講義 DVD 視聴 演習	
8	事例による看護過程の展開①（乳児期・幼児期） ・情報収集、情報整理	講義・ワーク	
9	事例による看護過程の展開②（乳児期・幼児期） ・アセスメント　　・関連図	講義・ワーク	
10	事例による看護過程の展開③（乳児期・幼児期） ・問題抽出、看護計画の立案	講義・ワーク	
11	事例による看護過程の展開④（乳児期・幼児期） ・看護計画の実際	講義・GW	

12	事例による看護過程の展開⑤（学童期） ・情報収集、情報整理	講義・ワーク	
13	事例による看護過程の展開⑥（学童期） ・アセスメント　　・関連図	講義・ワーク	
14	事例による看護過程の展開⑦（学童期） ・問題抽出、看護計画の立案	講義・ワーク	
15	事例による看護過程の展開⑧（学童期） ・看護計画の実際	講義・GW	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80%　　課題（提出状況・内容）や講義への参加状況 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第 14 版」,
奈良間美保・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護護総論 第 14 版」,
奈良間美保・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「小児の発達と看護」中野　綾美・他　メディカ出版, 2024 年
「小児看護技術」中野　綾美・他　メディカ出版, 2024 年

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	母性看護学	単位数	1 単位	桑野　ゆかり
科目名	母性看護学援助論Ⅱ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

妊娠期の保健指導の必要性や安全・安楽を考えた新生児の援助を学習する。また、ウェルネス思考を活用し正常な分娩経過をたどる産褥期の看護過程の展開を学ぶ。

授業目標

1　妊娠初期・中期・後期の保健指導の必要性が理解できる。
2　ウェルネスの視点を用いて、正常な経過をたどる褥婦と新生児の看護過程の展開ができる。
3　褥婦と新生児の援助について、安全・安楽を考え実施することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護過程の展開 ・ウェルネスとは ・母性の看護過程とは	講義	
2	妊婦の保健指導 ・妊娠期の保健指導 ・保健指導計画（母親学級、産褥体操など）	講義 GW	
3	妊娠期の保健指導 ・妊娠期の保健指導の実際	講義 ロールプレイング	
4	看護過程の展開 ・分娩期の看護過程 ・正常な経過をたどる褥婦の情報整理 ・正常な経過をたどる新生児の情報整理	講義 GW	
5	看護過程の展開 ・産褥１日目の情報整理 ・生後１日目の情報整理	講義 演習	
6	看護過程の展開 ・産褥１日目のアセスメントと看護 ・生後１日目のアセスメントと看護	講義 GW	
7	看護過程の展開 ・産褥２日目の情報整理 ・生後２日目の情報整理	演習 GW	
8	看護過程の展開 ・産褥２日目のアセスメントと看護 ・生後２日目のアセスメントと看護	演習 GW	
9	看護過程の展開 ・産褥３日目の情報整理 ・生後３日目の情報整理	演習	

10	看護過程の展開 ・産褥 3 日目のアセスメントと看護 ・生後 3 日目のアセスメントと看護	講義 GW	
11	看護過程の展開 ・産褥 4 日目の情報整理 ・生後 4 日目の情報整理	講義 GW	
12	看護過程の展開 ・産褥 4 日目のアセスメントと看護 ・生後 4 日目のアセスメントと看護	講義 GW	
13	看護過程の展開 ・産褥 5 日目の情報整理 ・生後 5 日目の情報整理	講義 GW	
14	看護過程の展開 ・産褥 5 日目のアセスメントと看護 ・生後 5 日目のアセスメントと看護	講義 GW	
15	看護過程の展開 ・褥婦と新生児の看護計画発表	講義 GW	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

看護過程 50%　　課題（提出状況・内容）や講義・グループワーク・演習への参加状況 50%

使用するテキスト

「系統看護学講座 母性看護学概論 第 15 版」，森恵美・他 著，医学書院，2026 年
「系統看護学講座 母性看護学各論 第 15 版」，森恵美・他 著，医学書院，2026 年

参考文献

「病気が見える 産科 第 4 版」，井上裕美・他 監修，メディックメディア，2018 年
「ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図　第 4 版」，佐世正勝他編集，医学書院, 2021 年

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	精神看護学	単位数	1 単位	西村　美耶
科目名	精神看護学援助論Ⅲ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

本科目では、精神看護の応用的な知識と技術を通して、多様な場におけるメンタルヘルス支援を理解し、実践に活かす力を養う。精神疾患をもつ人々への援助にとどまらず、職場・学校・医療・災害、そしてケアを提供する側をも対象としたメンタルヘルス課題に対応できる看護実践を学ぶ。また、再発予防やセルフマネジメント支援、ストレングスモデルなど、近年重視されるリカバリー志向の看護を基盤に、患者の自己決定・自己理解を支援する姿勢を育てる。精神科訪問看護の役割や介入についても学習し、地域で療養し生活する精神疾患をもつ人々への支援の実際について理解する。クライシスプランをはじめとした危機対応と予防的支援のツールを取り上げ、事例を通して看護過程の展開とチーム連携の重要性を実践的に考察する。

授業目標

1　職場・学校・災害・医療など、多様な場におけるメンタルヘルス支援の特徴を説明できる。
2　再発予防とセルフマネジメント支援の考え方を理解し、クライシスプランを用いた援助の意義を説明できる。
3　精神障害をもつ人の強み（ストレングス）に焦点を当てた看護実践を構想できる。
4　事例の対象者の全体像をとらえ、看護過程を展開できる。
5　看護師自身のメンタルヘルスケアの重要性を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	職場におけるメンタルヘルスと看護	講義・GW	
2	学校におけるメンタルヘルスと看護	講義・GW	
3	災害時のメンタルヘルスと看護	講義	
4	医療の場におけるメンタルヘルスと看護① ・リエゾン精神看護とその活動	講義	
5	医療の場におけるメンタルヘルスと看護② ・看護師のメンタルヘルスへの支援	講義	
6	地域における精神看護①　精神科訪問看護の役割	講義	
7	地域における精神看護②　危機介入と多職種連携	講義	
8	再発予防とセルフマネジメント　クライシスプランの作成	講義・演習	
9	精神看護学理論　セルフケアモデルとストレングスモデル	講義	
10	事例を用いた看護過程の展開①　統合失調症 アセスメント、問題点の抽出	講義・演習	
11	事例を用いた看護過程の展開②　統合失調症 ロールプレイ	講義・演習	
12	事例を用いた看護過程の展開③　統合失調症 リフレクション	講義・演習	
13	事例を用いた看護過程の展開④　気分障害 アセスメント、問題点の抽出	講義・演習	

14	事例を用いた看護過程の展開⑤　気分障害 ロールプレイ	講義・演習	
15	事例を用いた看護過程の展開⑥　気分障害 リフレクション	講義・演習	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。

評価方法

筆記テスト 70%　　平常点（授業態度、提出物など）30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第 6 版」,
武井麻子・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 第 6 版」,
武井麻子・他 著, 医学書院, 2026 年

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	2 単位	佐藤　みゆき
科目名	基礎看護学実習Ⅲ	時間数	90 時間	

DPとの関連	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

実習計画

【実習目的】
看護過程の思考のプロセスを使い、対象に適した看護の提供を行うための考え方がわかる

【実習目標】
1　対象を理解するために必要な情報が収集できる

2　受け持ち患者の情報を用いてアセスメントし看護上の問題を明確にできる

3　受け持ち患者の看護問題に応じた看護計画を立案できる

4　看護計画に基づき、日常生活援助が実践できる

5　実施した援助を振り返り評価・修正できる

6　看護者として必要な態度を養う。

【実習内容】
　一人の患者を受け持ちアセスメント（情報収集・情報の解釈)、問題の抽出、計画、実施、評価のプロセスをとり看護過程が展開できる。

【実習スケジュール】

日　程	内　容
1 日目	【臨地実習】 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介、コミュニケーション、情報収集、看護ケアの見学 カンファレンス（受け持ち患者の情報共有と関わりや療養環境についての気づき）
2 日目	【臨地実習】 情報収集　日常生活援助を指導者と一緒に実施 看護ケアの見学 テーマカンファレンス
3 日目	【学内実習】　情報の整理・全体像の把握
4 日目	【臨地実習】　情報収集　看護の実践 カンファレンス（アセスメント・関連図・看護診断・発表）
5 日目	【臨地実習】　情報収集　看護の実践　評価　修正 カンファレンス（中間評価） 技術経験録確認
6 日目	【臨地実習】　情報収集　看護の実践 カンファレンス（看護計画発表）
7 日目	【臨地実習】　情報収集　看護の実践（看護計画の見直し・修正、追加学習） テーマカンファレンス
8 日目	【臨地実習】　看護計画の実践 テーマカンファレンス
9 日目	【臨地実習】　看護の実践 テーマカンファレンス
10 日目	【臨地実習】　看護の実践 カンファレンス（看護の実施と評価発表） （最終評価発表） 技術経験録確認

【評価方法】

評価表に基づき、ルーブリックを参考に評価する。

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	入江　奈津恵
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ	時間数	45 時間	

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

実習計画

【実習目的】
・認知症対応型共同介護施設（グループホーム)、及び通所サービス（デイサービス）が、療養者にとって安全で安心して暮らせる「生活の場」であることを理解する。
・地域で生活する療養者に必要な社会資源や福祉サービスを理解し、安心して暮らせるように人権や権利がどのように守られているかを学ぶ。

【実習目標】
1　通所介護（デイサービス）の役割と機能について理解できる。
(1) 施設の概要・事業内容及び施設利用者の特徴をとらえることができる。
(2) 利用者の一日の過ごし方がわかり、施設における日常生活の援助の方法がわかる。
(3) 利用者にとって安全で安心して過ごせる「生活の場」であることが理解できる。

2　認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）の役割と機能について理解できる。
(1) 施設の概要・事業内容及び施設利用者の特徴をとらえることができる。
(2) 入居者の一日の過ごし方がわかり、日常生活習慣を踏まえ上でのセルフケア能力やQOLを考えた援助の必要性がわかる。
(3) サービス計画に基づいて行われる介護及び必要な医療、並びに日常生活上の援助について理解することができる。
(4) 療養者にとって安全で安心して過ごせる「生活の場」であることが理解できる。

3　療養者の生活を支える関係職種との連携・協働の必要性を理解する。
(1) 療養者を支える社会資源と保健医療福祉チームを知り、その役割を説明することができる。
(2) 医療・福祉チームの連携の実際、及び連携・協働の必要性がわかる。
(3) 地域における継続看護の重要性について述べることができる。
(4) 施設における権利擁護の取り組みについて説明することができる。

4　療養者の自立や生きがいをもつための支援がわかる。
(1) 療養者とコミュニケーションをとり、看護の対象者となる人の思いに気づくことができる。
(2) 施設におけるレクリエーションや行事の内容とその意義がわかる。
(3) 療養者が他者との交流によって得られる効果を説明することができる。

5　看護における基本的態度と自ら学び続ける態度・行動を身につける。
(1) 看護学生として報告・連絡・相談を行い、責任を持って行動することができる。
(2) 自己の健康管理、時間管理に努めることができる。
(3) 決められたルールを守り、学生として望ましい態度で実習することができる。
(4) 自ら学び続ける学習態度で実習に臨むことができる。
(5) 看護実践を通して、自己の看護に対する考えを明らかにすることができる。

【実習内容】
・通所サービス（デイサービス）
　通所サービスにて、介護サービス計画に沿った看護の実際を見学する。
　利用者とコミュニケーションを図りながら、地域で暮らす利用者の生活を知る。
・認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）
　担当指導者についてシャドーイングを行い、介護サービス計画に沿った看護の実際を見学する。
　見学を通して、施設が「暮らしの場」であることを理解する。
　入居者とコミュニケーションを図りながら、地域で暮らす入居者の生活を知る。

【実習スケジュール】
　月曜日～火曜日：通所サービス（デイサービス）実習
　水曜日～金曜日：認知症対応型共同生活介護施設（グループホーム）実習

日　程	内　容
月曜日	デイサービス　施設 OR、コミュニケーション、ケアの見学
火曜日	デイサービス　コミュニケーション、レクレーション参加、ケアの見学 最終カンファレンス
水曜日	グループホーム　施設 OR、コミュニケーション、ケアの見学
木曜日	グループホーム　日常生活支援の見学、レクレーション・行事参加
金曜日	グループホーム　日常生活支援の見学、レクレーション・行事参加 最終カンファレンス

【評価方法】
　ルーブリックによる評価とする。

2026.4.1.

分野	専門分野	配当時期	2 年　後 期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	木戸　信子
科目名	老年看護学実習Ⅰ	時間数	45 時間	

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

実習計画

【実習目的】
・高齢者の生活の場（介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム）で、高齢者とかかわり、高齢者の理解、生活の場の理解を深めるとともに高齢者福祉について学ぶ。
・高齢者と接する中で、高齢者の置かれている状況に関心を持って誠実に向き合い、相手を尊重するということの意味を考え深める。
・多職種と協働した高齢者の援助を体験することで、老年看護の専門性や看護の役割を学ぶ。

【実習目標】
1　老人福祉施設の役割と機能について理解できる
　(1) 施設の概要・事業内容について知ることができる
　(2) 入所者の特徴を知ることができる。
　(3) 入所者に行われているケアのマネジメントの実際を知ることができる
2　高齢者の生活史・時代背景を重視した日常生活の支援がわかる
　(1) 入所者の１日の過ごし方がわかる
　(2) 入所者の健康の保持・増進・疾病予防の支援の実際を知ることができる
　(3) 入所者の生活史を重視した日常生活支援の実際を知ることができる
　(4) 入所者にあったコミュニケーションの手段がわかり、ペースに合わせた対応ができる
　(5) 入所者の安全に配慮したかかわりをもつことができる
　(6) 入所者を取り巻く人間関係・家族の役割を理解できる
3　高齢者の自立支援や生きがいをもつための支援がわかる
　(1) 施設におけるレクリエーションや行事の内容とその意義がわかる。
　(2) 入所者の個別に応じた余暇活動への支援がわかる
　(3) 入所者の自立支援の実際を知る
　(4) 入所者の QOL について考えることができる
4　高齢者の健康生活を支援する多職種連携体制と看護の役割を説明できる
　(1) 入所者にかかわる多職種について説明できる
　(2) それぞれの職種が入所者にとってどのような役割を担っているのか説明できる。
　(3) 多職種がどのようなツールを使用し連携をしているか説明できる。
5　高齢者の人格を尊重した基本的態度で参加できる
　(1) 看護職としてふさわしい身だしなみを整えることができる。
　(2) 倫理観に基づき、高齢者を尊重する態度をとることができる。
　(3) 指導者・教員・学生間の報告・連絡・相談がタイムリーにできる。
　(4) 決められたルールを守ることができる。

【実習内容】
・実習開始事前に、直前オリエンテーションにて、実習内容、事前学習内容の確認、集合場所の確認、実習物品準備等を行う。(全員対象)
・初日は各施設の概要や各ユニットの特徴のオリエンテーションを受ける。
・初日に受け持ち入所者を1名決定して頂き、紹介を受ける。その後、情報収集を行い、ケアプラン内容に沿って看護職もしくは介護職の方とともに日常生活援助の見学、実施を行う。
・コミュニケーションに関しては、受け持ち入所者を中心に、全体のレクリエーションなどに参加し、他入居者ともコミュニケーションを図る。
・毎日 30 分間テーマカンファレンスを行う。初日と最終日以外は、実習中の困ったことや疑問に感じたことをテーマに取り上げカンファレンスを行い、指導者に助言を得る。
・2 日目からは、行動計画に沿ってコミュニケーション、日常生活援助の見学、実施、レクリエーションの参加を行う。
・実習終了後、後日日程を設け、まとめの会を行い、全体での学びの共有を行う

【実習スケジュール】

日　程	内　容
1 日目	施設オリエンテーション、受け持ち入所者紹介、 コミュニケーション、情報収集 テーマカンファレンス：初日の気づき、反省
2 日目	コミュニケーション、日常生活援助、レクリエーション参加 テーマカンファレンス：実習中の困ったことや疑問に感じたこと
3 日目	コミュニケーション、日常生活援助、レクリエーション参加 テーマカンファレンス：実習中の困ったことや疑問に感じたこと
4 日目	コミュニケーション、日常生活援助、レクリエーション参加 テーマカンファレンス：実習中の困ったことや疑問に感じたこと
5 日目	コミュニケーション、日常生活援助、レクリエーション参加 テーマカンファレンス：最終反省会

【評価方法】
ルーブリックによる評価とする。